令和3年度　翔洋学園高等学校運営計画

1　学校の現況

【課程・学科】広域通信制・単位制・普通科

【理事長】　佐藤　睦美　【校長】　石田　進　【副校長】　髙野　佳規　【教頭】　神林ひとみ

【事務局長・事務長】　飯村　信弘

【教職員数】１３５名（令和３年５月１日現在）

校長	1	副校長	1	教頭	1	教諭	３７	養護教諭	1
常勤講師	0	非常勤講師	８４	事務職員	7	非常勤事務	3		

【生徒数】（令和３年５月１日現在）

１年次		２年次		３年次		合計	
男	女	男	女	男	女	男	女
３６２	３４３	４７５	４７１	５４０	５２３	１，３７７	１，３３７

2　目指す学校像

自分で考え，主体的に行動し，世界に羽ばたき，未来を創造していく人間の育成を理念とし，「自由・自主・自立」の校訓のもと，生徒一人ひとりの個性を尊重しつつ，明日の社会を担う人材への成長，育成に努める。また，生徒が「自分育て」をしながら，未来を創造する力「明日力」の育成を目指す。

3　現状分析と課題

項目	現状分析	課題
学習指導	個々の学力の幅が広く，個別での対応を重視している。近年，不登校経験者の入学が増加し，基礎学力が定着されていない，また学習に対する意欲にかける生徒が多い。	・基礎学力の定着 ・学習意欲を持たせる継続的な指導 ・ICT教育の導入の検討 ・家庭との連携推進
進路指導	卒業後の進路決定者は増えつつある。一方では進路に対する意識が薄い生徒もいる。年次ごとに段階を経た進路指導を実施し，進路に対する意欲を高め，将来の夢や目標をもてるように支援している。	・進路決定率の向上 ・年次進行における進路指導 ・進路情報の提供 ・望ましい勤労・職業観の育成 ・家庭との連携推進
生徒指導	基本的生活習慣の定着が図り切れていない生徒が多い。また，内面的に課題を抱えている生徒も増えている。定期的にスクールカウンセラーや担任との面談を通して改善が見られる生徒もいる。保護者との連携を図り情報を共有しながら対応にあたっている。	・基本的生活習慣の確立 ・教育相談の充実 ・家庭とのより密な連携，関係構築 ・出身中学校，前籍校との情報の共有
特別活動	積極的に行事等に参加する生徒が増え，良好な交友関係を築いている。更に一人ひとりの個性を生かすため，生徒の活躍できる場を多く設定している。半面，集団行動に適応出来ない生徒も多い。HRや各種行事を通してコミュニケーション能力の定着を図っている。	・学校行事の工夫改善 ・地域性を活かした特色ある教育活動の推進 ・各種大会等への参加奨励

4　中期的目標

○　自ら考え，主体的に行動できる生徒を育成する。
○　豊かな心をもつ人間性を育てる。
○　多様な課題を抱える生徒の支援・育成をする。
○　２１世紀を担うリーダーを育てる。
○　働きながら学ぶ生徒，自宅で学習する生徒を支援する。

5 本年度の重点目標

重点項目	具体的目標
1　個々の生徒に応じた学習指導・進路指導の充実	生徒一人ひとりの能力や個性に応じた適切な個別に対応した学習指導を行い，学力向上を図る。また，生徒各自が卒業後の進路決定が実現できるように支援する。
2　心の成長を重視した道徳教育の充実	道徳教育の充実を図り，一人ひとりの生徒の豊かな心の育成を図る。自ら考え，自ら判断し行動できる生徒を育成する。
3　学校並びにセンター行事の創意工夫	魅力ある学校行事または各センターの行事を企画，運営し，様々な行事を通して，より良い人間関係（教師と生徒，生徒同士）を深め，充実した高校生活が送れるよう支援する。
4　地域との連携の充実	出身中学校，前籍校との連絡を密にし，情報を共有し合い，生徒一人ひとりの成長を図る。また，保護者会の開催，面談を通して保護者との連携を図り，協力しながら生徒を支援する。
5　多様な課題や問題を抱える生徒への支援	各生徒が抱える悩みや課題を解消できるように，一人ひとりに寄り添い，担任，スクールカウンセラーそして家庭との連携を図り支援する。

令和３年度

学校運営計画＝（教育計画・評価表）

目指す学校像	自分で考え，主体的に行動し，世界に羽ばたき，未来を創造していく人間の育成を理念とし，「自由・自主・自立」の校訓のもと，生徒一人ひとりの個性を尊重しつつ，明日の社会を担う人材への成長，育成に努める。また，生徒が「自分育て」をしながら，未来を創造する力「明日力」の育成を目指す。

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
個々に応じた丁寧な学習指導，進路指導の実践，また各種行事等で一人ひとりが活躍できる場を設定し，積極的な参加がみられ，教育的効果をあげることができた。多様な課題を抱え入学してくる生徒への適切かつ継続的な対応が求められる。	個々の生徒に応じた学習指導・進路指導の充実	生徒一人ひとりの能力や個性に応じた適切な学習指導を個別に行い，学力向上を図る。また，生徒各自が卒業後の進路決定が実現できるように支援する。	
	心の成長を重視した道徳教育の充実	道徳教育の充実を図り，一人ひとりの生徒の豊かな心の育成を図る。自ら考え自ら判断し行動できる生徒を育成する。	
	学校並びにセンター行事の創意工夫	魅力ある学校行事または各学習センターの行事を企画，運営し，様々な行事を通して，より良い人間関係（教師と生徒，生徒同士）を深め，充実した高校生活が送れるよう支援する。	
	地域との連携の充実	出身中学校・前籍校との連絡を密にし，情報を共有し合い，生徒一人ひとりの成長を図る。また，保護者会の開催，面談を通して保護者との連携を図り，協力しながら生徒を支援する。	
	多様な課題や問題を抱える生徒への支援	各生徒が抱える悩みや課題を解消できるように，一人ひとりに寄り添い，担任，スクールカウンセラーそして家庭との連携を図り支援する。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
国　語	・基礎基本的な国語の知識・能力の定着 ・「読む」「書く」「話す」「聞く」力の育成	・漢字の読み書き，四字熟語，故事成語，語句の意味調べ等の内容を添削課題に盛り込み，基礎基本的な国語の知識・能力の定着を図る。			
		・添削課題の自分の考えを短い文章にまとめる活動や，古典の調べ学習，俳句の創作活動等を通して，「読む」「書く」力や，問題解決能力の育成を図る。			
		・学習センターにおける日々の会話・ＨＲや面接指導を通して，生涯にわたる社会生活に必要な能力として「話す」「聞く」力の育成を図る。			
地・歴	・基礎的知識の定着させる ・学習内容の理解を深化させる ・批判的思考力を身につかせる ・グラフ等を読み取るリテラシーを養う。	・添削時、特に重要度の高い事項を明示し、試験に向けて意識させる。			
		・添削時、難解な項目への解説に加え、俯瞰した視点を提供する指導を展開する。			
		・添削時や試験の出題において、情報リテラシーを意識した内容を取り扱う。			
公　民	・理解を深めるための基本的な語句等基礎知識の獲得 ・自分という個から所属集団や社会への視点の拡大 ・実社会の問題を自分事として捉える意欲・関心の醸成	・教科書通読とレポート作成を通して基礎基本の定着を図る。			
		・主権者教育の拡充。			
		・消費者教育の拡充（関連教科との連携も含む）。			

数　学	・基礎基本の定着 ・自身の中から解答を導く感覚を養う ・現実世界との関連性を理解する	・観点別評価に応じた添削課題の作成と，個々の実態に対応した指導を行う。			
		・調べ学習を通して，現実世界との関連性への理解を図る。			
理　科	・基本的な自然現象における規則性を理解させると共に日常生活との関連付けを気付かせる。 ・コロナ禍においても可能なかぎり探求の課程を踏まえた学習活動の充実を図る。	・充実した内容のレポート作成(観点別評価)と，生徒個々のレベルに合わせた個別学習を強化する。			
		・コロナ禍においても可能である実験・実習・観察等の推進を目指し，自然への興味関心を高め，科学的なものの見方や考え方を養う。			
保　体	・運動の楽しさや喜びを味わい，運動を継続する意義を理解し，生涯にわたって継続しようと思う気持ちを高める。 ・コミュニケーション能力の育成，人間性の育成。 ・健康の保持増進	・実技スクーリングへの出席率の向上			
		・運動における協働の経験を通して，互いに協力すること，一人ひとりの違いを大切にしようとする意欲を育てる。 （性別，体力，障害，技能の違いなど）			
		・生徒の実態に合わせたスク―リング内容の工夫			
		・グルーピングの工夫			
		・基本的生活習慣の見直し			
芸　術 （書道）	・様々な場面に対応する書写能力の基礎の定着をはかる。 ・自己表現の能力の向上，書の美しさを感じ取る鑑賞力を育てる。	・芸術と実用との観点から書くことの楽しみや意欲を育てる取り組みを働きかける。			
		・書写能力の基礎の充実を図るべく，各学習の目標に照らし合わせきめ細やかな添削指導をする。			
		・実技課題の取り組みの中で，教科書を活用する機会を増やせるよう工夫する。			
外国語	・基礎基本の定着を図る ・「読む」「書く」「話す」「聞く」「伝える」力の育成	・運用度が高い英単語，熟語をレポートに盛り込み，基礎基本を定着させる。また，英問英答や自分についての質問に答える問題など，レポートを通して，「読む力」「書く力」「伝える力」の育成を図る。			
		・「聞く力」「話す力」の育成を図るため，校外学習の機会を設け，簡単な日常会話の実践や英会話の基礎知識を理解できるよう工夫する。			
		・生徒のレベルに沿った学習指導を行う。			
家　庭	・生活に必要な知識・技術の習得に努める。	・成人年齢の引き下げに伴い，契約や消費者問題に関する指導を強化する。（他教科と連携しながら多角的に進める。）			

	・生活を工夫し創造する能力を育成する。 ・生活の中の問題を発見し解決に向けて動ける力，多様な見方・考え方を受け入れる力を育てる。	・ホームルームや校外学習，家庭科だよりを通して「食育」の推進に力を入れ，生徒の健康増進に努める。			
		・生徒の実態に合ったレポートを作成し，充実した学習指導ときめ細かな添削指導を行う。			
情　報	・情報と情報技術活用能力の育成 ・問題解決に向けて情報と情報技術を活用する力を養う。 ・情報社会に主体的に感覚する態度を養う。	・生徒の実態に合わせた内容のレポートの作成をする。			
		・情報モラルの理解や情報リテラシーの基礎をスクーリングで取り組む活動を盛り込む。			
		・情報の信頼性や信ぴょう性を見極めたり確保したりする能力の育成をスクーリングやホームルーム活動に盛り込む。			
学習指導	・基礎・基本の習得，活用する力を育成する。 ・生徒の実態に即した添削指導課題・面接指導の改善。 ・新学習指導要領をふまえた新たな教育課程の編成	・基礎・基本を精選し，確かな学力の育成を図る。			
		・教科の枠を超えた横断的な学習活動の検討・実施。			
		・体験的な学びを重視し，主体的に学ぶ姿勢を育む。			
		・「主体的な学び」，「対話的な学び」，「深い学び」の視点からの学習内容の充実・改善。			
		・不測な社会に柔軟に対応し，たくましく生き抜くための「明日力」の涵養をめざし，総合的な探究の時間でR-PDCAサイクルを取り入れた自己の課題解決法を身に付ける。			
		・学習指導要領の主旨をふまえ，学校としての教育目標に基づき，生徒の実態に即した新たな教育課程を編成する。（令和４年度完全移行）			
特別活動	・望ましい集団生活を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り，集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする主体的，実践的な態度を育てる。	ホームルーム活動 ・ホームルーム活動を通して，望ましい人間関係を形成し，集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活作りに参画し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を育てる。			
		学校行事 ・学校行事を通して，望ましい人間関係を形成し，集団への所属感や連帯感を深め，協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる。			
進路指導	・望ましい勤労観・職業観の育成と進路意識の高揚に努める。 ・生徒一人一人に応じた進路指導の充実を図る。	・各センターで進路調査に基づき，生徒・学年に応じた様々な進路活動を定期的に行い，勤労観や職業観の育成，希望進路実現に向けての指針を与え，進路に対する意識の高揚を図る。毎年同じ内容にならないよう工夫する。			
		・ホームルーム活動，履修相談，面談（二者・三者）等を通して，能力の適性に応じた進路選択ができる時間をつくる。また，進学・就職それぞれの指導を教員が連携しながら一人一人に応じた指導を細やかに行う。			

生徒指導	・問題行動未然防止へ向けた指導を徹底する。 ・モラルや公共心を身に着け，規範意識の向上を図る。 ・いじめ撲滅に務める。 ・幅広い生徒層に対する支援体制の確立。	・登校した際の継続した生徒観察や定期的な個別面談の他，こまめに保護者との情報共有に努める。			
		・ホームルーム等において，講話等を行い，継続的な指導を実践していく。			
		・年３回のいじめ実態調査を通じ，いじめ行為の根絶を図る。			
		・出身中学校や前籍校をはじめ，福祉・医療機関と連携を図り，充実した支援を行う。			
保健環境・安全	・心身の健康と健康保持増進に必要な自立能力の育成を図る。 ・環境衛生と安全管理の徹底に努める。	・健康診断や保健調査の結果を把握し，治療勧告や保健指導をすることにより，生徒の健康管理を図る。			
		・ホームルームや生徒登校時に保健だよりや食育通信等を利用し保健指導を実施したり，年間計画に基づく保健指導を実施したりすることにより，生徒の健康の保持増進について意識高揚に努める。			
		・施設設備の点検の充実を図り，環境の整備事故防止に努める。			
センター運営	・家庭や地域との連携，協働を重視した特色ある教育活動の推進。 ・生徒たちの居場所となる雰囲気づくりや環境の整備に努める。	・地域の特性を活かし，家庭や地域との連携・協働を重視し，教育活動全体を通して，多様な学びや人間性の陶冶につなげる。			
		・特色ある教育活動を実践し，それを保護者や地域等へ広く発信し「開かれた学校」づくりに努める。			
		・教員間の情報交換や共通理解を徹底して生徒理解を深め，生徒一人一人を大切にし，生徒たちの居場所となる雰囲気づくりや環境の整備に努める。			

【評価基準】　A：十分達成できている　　B：達成できている　　C：概ね達成できている　　D：不十分である　　E：できていない